

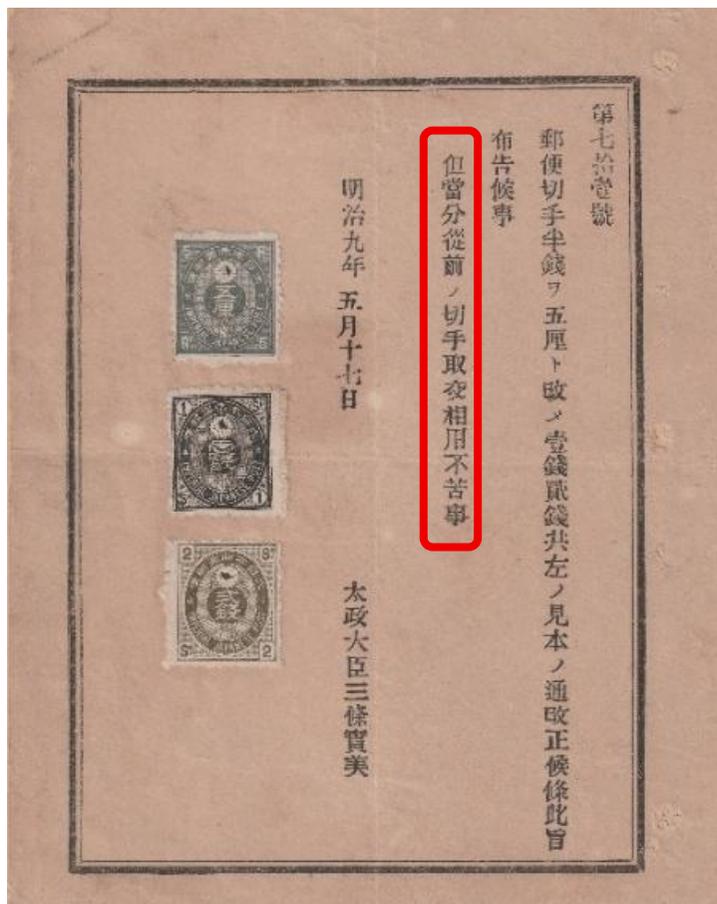
小判切手 150 年に寄せて

田畑 裕司

今から 150 年前の明治 9 年 (1876) には、5 月 17 日に旧小判 5 厘・1 銭黒・2 銭オリーブが、続いて 6 月 23 日に 4 銭および 5 銭が発行されました。しかし、**布告において「当分の間、従前の切手を取り扱っても差し支えない」(赤枠参照↓)**とされたため、新切手の流通はあまり進みませんでした。そのため、初日カバーは存在していませんし、特に 5 厘切手は発行して何年も使用されませんでした。

当初、これら 5 額面にはいずれも「**厚手無地紙**」と呼ばれる分厚い用紙が使用されました。この用紙は、主に大局で使用されましたが、多数貼カバーや使用済ブロックは極めて稀です (次ページ参照)。

おそらく、郵便局員が手元に残っていた手彫切手の在庫を優先的に販売し、旧小判切手については必要最小限の枚数のみを売りさばいたため、明治 9 年発行の厚手無地紙による多数貼や使用済ブロックが少なくなったものと考えられます。



旧小判切手の最初の布告 (5 厘・1 銭黒・2 銭オリーブ)



2銭オリーブ「厚手無地紙」P.11s×9s 10枚貼（ブロックを含む。）エンタニア
 東京で明治9年8月21日に使用された
 1銭切手は従来の手彫切手（改色カナ入り「レ」）を貼付している
 7倍重量・不便地あて書留